

かていれいはいがいどさいがいじ  
家庭礼拝ガイド（災害時のために） 第一日

しゅあたしゅと  
テーマ：主は与え、主は取られる

せいしょかしよ き しょう  
聖書箇所：ヨブ記1章

きょう  
◆今日のみことば

「主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」ヨブ記1章21節

◆メッセージ

2011年3月11日に、大きな地震が起こりました。地面がぐらぐらと揺れ、海からは大きな津波がやってきました。多くの町や村が波にのみ込まれ、大勢のいのちが失われました。そのときに生まれた人も今は10歳ですから長い時間がたちましたが、今も悲しい気持ち、つらい気持ちを持っている人が大勢います。

地震がおこる。台風がおこる。私たちは怖くなります。そしてイエスさまにお祈りします。「イエスさま、助けください。守ってください。ひどいことがおこらないようにしてください。」ところがどれだけお祈りしても地震がおこる。台風がおこる。神さま、どうしてこんなひどいことをするのですか？私のお祈りを聞いてくださらないのですか？そう思うのは皆さんだけではありません。お父さんお母さんも思うし、牧師も思います。

聖書に「ヨブ」という人が出てきます。ヨブさんは正しくまっすぐな心をもって神さまを恐れて生きる人でした。そんなヨブさんについてサタンが神さまに言うのです。「ヨブがあなたを恐れるのは、あなたが彼にたくさんのものを与えているからですよ。それを取り上げたらヨブはあなたを信じるのをやめますよ」。神さまはサタンに答えます。「そんなことはない。それなら彼の持ち物を取ってみたらよい」。ヨブさんの知らないところでこんなやりとりがあったとは勝手な話です。そしてサタンはヨブの持ち物を奪い、愛する家族までもあつという間に奪ってしまったのです。ひどい話です。神さまあんまりです。ヨブさんも「もうあなたを信じるなんてやめます」と言うと思います。私だったらそう言うと思います。

ところが、ヨブさんはこの大きな悲しみの中で神さまを賛美するのです。「主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな」。なぜかわからないことがあるけれど、それでも神さまを賛美する。神さまどうして？と聞きながら、それでも神さまを賛美する。むずかしいことです。でもそうやって神さまとともに生きるのです。

いの  
◆お祈り

「神さま、与えられるときも、取り去られるときも、どんなときでもあなたに向かって賛美することができますように。」

（徳丸町キリスト教会牧師 朝岡勝）

かていれいはい さいがいじ  
家庭礼拝ガイド（災害時のために） 第二日

く あらた  
テーマ：あなたがたも悔い改めないなら

せいしょかしよ ふくいんしょ しょう せつ  
聖書箇所：ルカの福音書 13 章 1～5 節

きょう  
◆ 今日のみことば

「あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」ルカの福音書 13 章 3、5 節

◆ メッセージ

ある人々がイエスさまに報告しました「総督ピラトが、ガリラヤ人たちを死刑にして、その血を神さまへのささげものに混ぜたそうです。」

神さまは、ノアの時代には悪い人々を大洪水で滅ぼし、アブラハムの時代にはソドムの町の悪い人々を火で滅ぼしました。神さまは悪い人々を滅ぼしてしまうと聖書は教えています。だから、イエスさまに報告した人たちは、「あんなひどい災難にあったガリラヤ人たちは、特に悪い人たちだったのだろう。」と、思ったのでしょう。

ところが、イエスさまは、報告に来た人たちに繰り返しおっしゃいました。「あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」（3 節）「あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」（5 節）イエスさまは、「君たちは、あの人たちは特別に悪かったから神さまに滅ぼされたけれど、『わたしは関係ない。』『ぼくはだいじょうぶ。』と、ひとごとのように思っています。でも、君たちも悔い改めなければ、滅びます。」と、おっしゃったのです。

イエスさまは、おっしゃいます。「あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びます。」神さまの前で罪のない人はひとりもいません。神さまに、自分の罪を言いあらわして、悔い改めましょう。神さまは、あなたをイエスさまの十字架のゆえに赦してくださいます。

いの  
◆ お祈り

「神さま、ごめんなさい。私もあなたの前に罪をおかしました。ゆるしてください。」

（苫小牧福音教会牧師 水草修治）

かていれいはい さいがいに  
家庭礼拝ガイド（災害時のために） 第三日

よ お とき  
テーマ：世が終わる時

せいしよかしよ ふくいんしよ しょう  
聖書箇所：マタイの福音書 24 章

きょう  
◆今日のみことば

「ですから、目を覚ましていなさい。あなたがたの主が来られるのがいつの日なのか、あなたがたは知らないのですから。」マタイの福音書 24 章 4 節

◆メッセージ

みなさんは台風の大雨や大風、地震などで怖い思いをしたことがあるでしょうか。日本は地震の多い国ですし、地球温暖化によって豪雨の被害は大きくなっています。

2011年の東日本大震災では2万人もの人々が亡くなりました。亡くなった人のいる家族の悲しみは今も続いています。みなさんはどうでしょうか？自分とはあまり関係ないことと思うのでしょうか。それではいけません。

聖書は世界に終わりががあると教えます。太陽や地球には寿命がありますから、世界が終わるのは確実です。でも、それは遙か先のことなので、だれも心配しません。心配なのは、人間が核戦争や地球環境で世界を滅ぼしてしまうことです。神さまがどのように終わらせるかはわかりませんが、世界は終わります。マタイ 24 章には、世が終わる前に起こる戦争、飢饉、地震、偽キリストなどのことが書いてあります。

災害は、いつも神さまが守って下さっている自然が、人間に被害を与えることです。これは「世が終わる時」のための警告です。私たちはどうしたら良いのでしょうか？

4 節には次のように書いてあります。「ですから、目を覚ましていなさい。あなたがたの主が来られるのがいつの日なのか、あなたがたは知らないのですから。」目を覚ますということは、神を信じること、神さまに喜ばれるように生活することです。神さまを礼拝し、人々を愛することです。

災害は、私たちが目を覚ますための目覚ましのようなものです。目を覚まし、起き上がって神さまの喜ばれることをしましょう。信仰を持って「世が終わる時」に備えましょう。人はみな死にますが、それはその人にとっては「世が終わる時」です。イエス・キリストを信じて天国の約束があれば安心ですね。信仰を持って、お祈りやボランティア活動で災害に苦しむ人を助けることは、神さまの喜ばれることです。

いの  
◆お祈り

「私たちの天の父なる神さま、私が目を覚まして、いつも神さまの喜ばれること、隣人を愛することができるようにしてください。」

（派遣教師 山口陽一）

かていれいはい さいがいじ  
家庭礼拝ガイド (災害時のために) 第四日

かみ あい さいがい  
テーマ：神の愛と災害

せいしよかしよ もくしろく しょう せつ  
聖書箇所：ヨハネの黙示録16章1～11節

きよう  
◆今日のみことば

「また私は、祭壇がこう言うのを聞いた。『しかり。主よ、全能者なる神よ。あなたのさばきは真実で正しいさばきです。』」ヨハネの黙示録16章7節

◆メッセージ

人間は悪いことをたくさんしています。世界は神さまの願いとは違った方向に進んで行きます。神さまはそれを残念に思い、人間が間違いに気づいて正しい道に戻るように、試練を与えて導こうとなさいます。それは、人間を罰するためではありません。神さまはすべての人間を愛しておられるので、何とかして救おうとして、人間を神さまの方へと引き寄せようとなさるのです。けれどもそれは、私たちにはとてもつらいできごとかんに感じられることがあります。災害もそのひとつです。

黙示録には繰り返しそのような災害が出てきます。七つの封印(5～8章)、七つのラッパ(8～11章)、七つの鉢(16章)、つらい災害の連続です。同じことが繰り返されているように感じるかも知れませんが、そうではありません。神さまの試練は、封印の時は四分の一に、ラッパの時は三分の一に、鉢の時は全部に、はじめは軽く、あとになるほどだんだん重くなります。神さまはすべての人を愛しておられ、一人も滅びずに救われることを願っておられるので、はじめは試練をできるだけ軽くしてくださるのです。

つらいできごとおが起きた時、神さまの方に向かえば、赦しときよめを受けます。神さまを拒めば、さばきを招きます。聖書は、残念なことに多くの方が、神さまを拒み続け、だんだんひどい試練を受けて行ったと書いています。それは神さまのせいではなく、人間が悪いことをやめず、神さまに逆らい続けたからなのです。9節「これらの災害を支配する権威を持つ神の御名を冒瀆した。彼らが悔い改めて神に栄光を帰することはなかった。」11節「天の神を冒瀆し、自分の行いを悔い改めようとしなかった。」とくり返されている通りです。

私たちは、災害にあったり、つらいできごとおが起きた時、いつでも神さまは私たちを愛しておられ、救おうとしておられることを思い出しましょう。そして、神さまへの信頼を深め、希望をもって歩みましょう。

いの  
◆お祈り

「つらいできごとおが起きたとき、神さまのほうに心をむけて歩めますよう、たすけてください。」

(派遣教師 廣瀬薫)

かていれいはい さいがいに  
家庭礼拝ガイド（災害時のために） 第五日

あらし しず  
テーマ：嵐を静めたイエスさま

せいしよかしよ ふくいんしよ しょう せつ  
聖書箇所：マタイの福音書 14章 22～33節

きょう  
◆今日のみことば

「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない。」マタイの福音書 14章 27節

◆メッセージ

この聖書箇所をシンプルに理解するため、聖書がカギ括弧で記している言葉に目を止めて読んでいきます。

かぜ なみ なや でし ちか み おおえ、でし たちはかた 語ります。26節  
嵐と波に悩まされている弟子たちに近づかれるイエスさまを見て、おびえ、弟子たちは語ります。26節  
「あれは幽霊だ」。

しかし、そのような弟子たちにイエスさまは語られます。27節「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」。

このイエスさまの言葉に勇気づけられたペテロは、あらし なか た あ みず うえ ある はじ  
す。28節「主よ。あなたでしたら、わたしに命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください」。

イエスさまも、そのペテロにこたへます。29節「来なさい」。

あらし なか きょうふう ちよくめん しず さけ せつ しゆ たす  
けれども嵐の中、強風に直面して沈みかけたペテロはイエスさまに叫びます。30節「主よ、助けてください」。

その瞬間イエスさまは、ペテロの手をつかみ、かた 語ります。31節「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」。

そして、イエスさまが弟子たちの舟に乗ると、あらし しず けいけん でし かた  
嵐が静まり、このような経験した弟子たちが語ります。

32節「まことに、あなたは神の子です」と。

さてどうでしょう。この短い聖書箇所の中で、でし たち、そしてでし のひとりペテロは、とても目まぐるしく変化しています。悩み、おびえ、恐れ、沈み…。

いっぼう  
一方イエスさまは、ずっと寄り添い、でし たちの側にと歩み寄られています。あらし なか かぜ なみ なや  
れている弟子たちの舟に歩み寄られ、こわがっている弟子たちには「おそれるな」と語り。水の上を歩こうとするペテロには「来なさい」とペテロの背中を押し、風を見て、湖に沈みかけたペテロには、手を伸ばし助けています。そしてイエスさまが弟子たちのいる舟に乗り込まれています。

いま  
今も、イエスさまは、あらし なか わたし よ そ ささき はげ たす つよ  
す。今も、イエスさまは、嵐の中、私たちに寄り添ってくださり、支え、励まし、助け、強めてくださいます。

いの  
◆お祈り

かみ じっさい あらし ちよくめん さいがいに あ ととき じんせい あらし なか わたし よ そ わたし さき  
「神さま、実際の嵐に直面して災害に合う時、また人生の嵐の中で、私たちに寄り添い、私たちを支え、励まし、助け、強めてください。そしてイエスさまの御力をもって嵐を静めてください。イエスさまのお名前によってお祈りいたします。」

(茨木聖書教会牧師 吉持日輪生)

せいしょかしよ びと てがみだいいち しょう せつ  
聖書箇所：コリント人への手紙第一 10 章 13 節

きょう  
◆今日のみことば

「あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。」コリント人への手紙第一 10 章 13 節

◆メッセージ

イエスさまはいつでも僕のことを見ていてくれる。でもイエスさまは神さまなのにどうして僕がこんなに大変なのに助けてくれないんだろう。そう思ったことはありませんか。どしゃぶりの雨で家に水が来ちゃった。大きな地震で僕はケガをしたんだ。そんな時、イエスさまがすぐに助けてくれたらどんなにいいだろうと思いますよね。

でも神さまが助けてくれるまで長ーく待つこともあるみたい。とっても長い時間をかけて助けてくださったことが聖書に書いてあります。どれぐらいかかったと思う？ 何と 400年！ えーっと驚くかもしれません。そんなに待ったら僕はおじいちゃんになって、天国に行っちゃうよ。そう、そうかも知れません。昔エジプトで神さまを信じる人たちは奴隷になっていました。いやな仕事はさせられる。食べ物も少ない。死んでしまおうでした。神さまは何をしていたのでしょうか？ 実はじっと見ていてくださったのです。そして大変な時でもみんなが神さまを信じ続けることを願っておられました。400年間も待ったので、病気になったりケガをしたり、たくさんの方が奴隷のまま死にました。でも神さまを信じていたので死んで終わりではありません。神さまはその人たちを天に迎えてくださいました。

大雨や地震そしてケガ。それはもう大変なことです。でも神さまが全部を見てくださるから、イエスさまが必ず天に迎えてくださるから、私たちは何があっても大丈夫。長い時間がかかっても安心してお父さんやお母さん、まわりの人と助け合っていけばいいのです。おじいちゃんやおばあちゃんは大変なことをたくさん経験して知っているの、きっと色々おしえてくれます。そして神さまはがまんする力もちゃんとくださるし、ずっと後になって、「やっぱり神さまは僕のことを見ていてくださった。これが脱出の道だったんだ」そう分かる日が必ずきます。

わたし 安心して神さまに任せて、じっと待っていきましょう。

いの  
◆お祈り

「いつも見ていてくださる神さま。僕は今大変です。心配だし怖いですが。でもイエスさまが守ってくださることを信じます。ありがとう。」

（北総大地キリスト教会牧師 藤田敦）

かていれいはい さいがいに  
家庭礼拝ガイド（災害時のために） 第七日

かみ う なぐさ  
テーマ：神から受ける慰めによって

せいしよかしよ びと てがみだいに しよ せつ  
聖書箇所：コリント人への手紙第二 1 章 4 節

きよ  
◆今日のみことば

「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます。」コリント人への手紙第二 1 章 4 節

◆メッセージ

災害は私たちを苦しめます。悲しくて、怖くて、不安で眠れない時もあると思います。でも神さまは、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださると御言葉は約束しています。

神さまがくださる慰めってどういうものなのでしょう。続く箇所によれば、その慰めは「苦難に耐え抜く力を、あなたがたに与えてくれる」と語られています（1:6）。神さまはあらゆる苦しみを乗り越えることのできる力を、私たちに与えてくださるのです。

この手紙を記したパウロは、何度も大きな苦しみを経験していました。耐えられないほどの圧迫を受けて、生きる望みを失い、もう生きられないと思うほどの苦しみを味わっていました（1:8-9）。でも、パウロは苦しみの中で耐え抜く力を神さまからいただくことができました。

その慰めの力は、どのようにしてパウロにもたらされたのでしょうか。彼はこう書いています。「気落ちした者を慰めてくださる神は、テトスが来たことで私たちを慰めてくださいました」（7:6）。しかもテトスが来たことだけでなく、テトスのことを慰めたコリントの教会の人たちの存在によっても慰めをいただいたと語っています（7:7）。神さまの慰めは、人を通してもたらされるのです。

今、あなたのそばで、あなたに寄り添い、声をかけ、関わってくれる人がいるでしょうか。あなたのことを思い、その苦しみを分かってくれる人がいるでしょうか。神さまはそういう人をあなたに与えてくださるはずで、祈ってくれる人がいる。心配してくれる人がいる。そばにいて応援してくれる人がいる。そういう人の存在を通して、神さまは私たちに耐え抜く力を与えてくださるのです。

そしていつか、あなたも苦しむ誰かのために、神さまの慰めをもたらす人として用いていただけるのです。

いの  
◆お祈り

「神さま、あなたは人を通して、耐え抜く力を与えてくださることを知りました。神さまが与えてくださる慰めを感謝します。いつかわたしも慰めをもたらす人となることができますように。主の御名によって祈ります。アーメン。」

（茅ヶ崎同盟教会牧師 山村諭）